

研究課題：欠神てんかんに対するレベチラセタムの有効性の検討

1. 研究の目的

欠神てんかんは思春期以降まで発作が残存する場合、成人期も内服加療を要することがあります。妊娠、出産に比較的安全であると報告がある、レベチラセタムの欠神てんかんに対する有効性を検討します。

2. 研究の方法

2017年1月から2022年1月までに欠神てんかんの治療として、神経科でレベチラセタムが処方された患者様が対象となります。診療録から投薬量、投薬期間、有効性などを調査します。

3. 研究期間

2024年1月（倫理委員会で承認を得られた日）から2027年4月まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

カルテの記載から、患者様の性別、年齢、発作型、投薬量、投薬期間、薬剤の有効性を調べます。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切わからないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：神経科 科長 菊池 健二郎

研究分担者：神経科 副院長 浜野 晋一郎

保健発達部 医長 小一原 玲子

神経科 医長 松浦 隆樹

神経科 医長 平田 佑子

神経科 医員 竹田 里可子

神経科 医員 竹内 博一

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年5月31日までに下記の連絡先へお申し出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）